

(3) 第3回交流会 会場：あべのハルカス 23階ハルカス大学セミナールーム

日時	令和2年1月26日(日) 13:30~16:30
テーマ	住
担当班	中嶋未歩、小島夢輝、藤井優希、小谷拓未、建林萌恵(和歌山大学) 1・2・3期生サポート：浦谷拓弥(大和大学、2期)、岡橋拓摩(大和大学、3期)
学生リーダー会 ボランティア活動紹介	○私にとっての消費者教育 ○泉大津市「親子イベント」について ○和歌山大学「消費者市民と社会」での授業支援(TA)について
消費者を大事にする 企業活動紹介	○『パナソニックの消費者志向経営 ～これからのスマートライフ(創エネ・省エネ・蓄エネ)』 パナソニック株式会社 田中義雄様 (公益社団法人消費者関連専門家会議(ACAP) 会員企業)
ワークショップ「人や社会や地球にやさしい消費行動を考える」	『エネルギーのムダ使い～罪悪感を感じない解決策はこれだ!』 私たちは、生活する中で知らず知らずのうちにエネルギーを無駄にしている。例えば、人がいない部屋の暖房をつけっぱなしにしたり、お湯が出るまでの冷たい水を捨てたりしている。今回のワークショップでは、自覚のないエネルギーの無駄遣いに気づき、エネルギーを無駄にしないライフスタイルを考えたい。自分の生活を見直し、エネルギーとの付き合い方を意識するきっかけになればと思う。

時間	プログラム	司会・進行(所属)
1 13:30(5)	開会	事務局 岡橋拓摩(和歌山大学)
第1部 活動紹介		
2 13:35(20)	私にとっての消費者教育	消費者教育学生リーダー 竹内昌広(和歌山大学)
3 13:45(15)	消費者教育学生リーダー会活動紹介 (『大和府中北部産地「モズライフアカデミー」の活動について』)	消費者教育学生リーダー会 清谷拓弥(大和大学)
	②和歌山大学「Primer Market」出店	消費者教育学生リーダー会 岡橋拓摩(和歌山大学)
4 14:00(20)	消費者を大事にする企業活動紹介 「靴と靴の箱—靴を安全・快適にお届け— 「靴のダイアノの取組—」	ダイノ株式会社 新田 人 氏 和歌山県立大学 和歌山県立大学の消費生活センター
15:00(15)	休憩	
第2部 ワークショップ・交流会		
	ワークショップ・交流会	ファシリテーター 金野高(和歌山大学)
5 15:15(20)	ワークショップ「人や社会や地球にやさしい消費行動を考える」 自分のために靴を選択するというとは?	グループディスカッション 金野高(和歌山大学)
6 15:50(10)	まとめ	消費者教育学生リーダー会 金野高
7 16:25(5)	閉会式 アンケート記入	消費者教育学生リーダー会 金野高

<参加者数>

種類	参加者数	備考
学生	26名	○学生リーダー会学生8名（1期生1名、3期生7名） ○一般学生9（大和大学2、立命館大学1、和歌山大学6）
企業	15名	パナソニック株式会社2、住友生命保険相互会社、小林製薬株式会社、大阪ガス株式会社、ハウス食品株式会社、イカリ消毒株式会社、タビオ株式会社、ミズノ株式会社、雪印メグミルク株式会社、ACAP 理事1、NACS4
大学	4名	和歌山大学2、大学コンソーシアム大阪2
その他	6名	大阪府消費生活センター4、事務局2
合計	51名	

<第3回交流会の様子>

1. 開会式

司会：小島 夢輝(和歌山大学)



開会の挨拶：鯨坂先生(和歌山大学)

始めに司会者から注意事項・配布資料の確認があり、その後開会宣言を行った。



2. 「私たちにとっての消費者教育」小谷 拓未(和歌山大学)

SDGs とは何かを説明すると共に、自分の参加したイベント(12/22の日曜日に開催された親子イベント「町の材料でおもちゃを作ろう」)を踏まえて考えた消費者教育について語った。



3. 消費者教育学生リーダー会活動紹介

①泉大津市「親子イベント」について 中島未歩(和歌山大学)



イベントの概要(開催日時など)を説明した後、イベントを開催した目的、SDGs とは何かなどについて語った。今回のイベントの目的が、「講座を受講している大学生がボランティア 活動と通じて消費者教育について学ぶ事、イベントを通じて SDGs の 12 番目の 項目である「つくる責任、つかう責任」を次世代を担う子どもたちに伝える」ことであったことも発表された。

③和歌山大学「消費者市民と社会」での授業支援(TA)について 岡崎拓磨
(大和大学、リーダー会3期)

和歌山大学の授業として実施された「消費者市民と社会」において、学生リーダー会のメンバーがティーチング・アシスタント (TA) として授業の中で具体的にどのような支援を行ったかについて発表を行った。



4. 消費者を大事にする企業活動紹介：株式会社 Panasonic 田中義雄 様

テーマ:『パナソニックの消費者志向経営~これからのスマートライフ~』

近年世界中で環境問題やエネルギー問題について問題視されるようになり、対応を迫られるようになった。これらの問題を解決していくためにどのような活動を行っているのかをパナソニックの田中 義雄様にお話しいただいた。今、電気は私たちの生活に無くてはならないものであり、今の状態でいきなり使用料を減らせというのは難しい。そこでパナソニックでは、より少ないエネルギーで動く同じ機能ないしはそれ以上の機能を持つ電化製品を開発することで、環境問題に取り組もうとしている事がわかった。また、電化製品の稼働時間によってはつけっぱなしの方が効率が良いなど、その日からでも個人で実践出来る環境問題への解決策も学ぶことが出来た。



5. ワークショップ『人や社会や地球にやさしい消費行動を考える』

ファシリテーター 藤井 優希(和歌山大学)

テーマ: エネルギーの無駄遣い~罪悪感を感じない解決策はこれだ!!~

今回のテーマでは日頃意識しないうちに無駄にしているエネルギーをどのように減らすかについて考えた。

まずどのような事をするか前で説明した後、7つの班(学生約4人、企業の方2人の計約6人程度の班)に分かれてグループワークを行った。

グループワークで考えた内容は、①無駄なエネルギー使用について考えよう②無駄なエネルギー使用に対する解決策を考えようの2点である。

グループワーク後の発表では、以下のような意見が出た。

1班 資源の無駄

ペットボトルではなく紙の容器を使うことで資源の無駄をなくせるのでは

水の無駄

節水を心掛けるシールなどを目のつくところに貼っておくことで、節水を「意識」することが出来、水の流しっぱなしを防止できるのでは

2班 電気の無駄

「意識」をすることでこまめに電気を消したりエアコンを消したり出来るのでは

3班 衣類の無駄



穴が開いても捨てるのではなく、手を加えてバザーやリサイクルに出せるのでは
電気の無駄

一人で使うのではなく多くの人数ですればよいのでは

4班 紙の大量消費

ネットでやり取りを行うなどペーパーレス化をすることで紙の使用を減らすことが出来るのではないか

5班 電気の使用

防犯用などで必要な電気もあると考え、電気を消すではなく使い分けが必要なのではないか

6班 電気の無駄

冷暖房やホットカーペットはタイマーを設定しておくことで無駄な使用を防げるのでは

7班 無駄の数値化

電気などの無駄な使用を数値化(料金化)することによってそのような使用をなくせるのではないか。

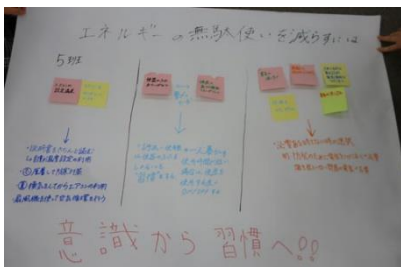
最後に、各班の発表の後、ファシリテーターによる、ワークショップのまとめが行われた。「意識」が大切であるとの意見が多かった。

7. 閉会式

以上の交流会の内容がすべて終了した後、大阪府消費生活センターから大阪府消費者教育学生リーダーの認定式が執り行われた。(詳細は事項参照)

今年度を総括して岡崎先生(和歌山大学)の挨拶が行われ、終了となった。





(4) 大阪府消費者教育学生リーダー認定式

令和元年度第3回企業×学生交流会の最後に大阪府消費生活センターによる認定式を執り行った。認定式では、大阪府消費者教育学生リーダーの認定要件を満たした学生に対して、認定証ならびに認定カードが授与された。

認定者数	28名(2大学)
------	----------

